

2007年9月

インド式計算に思う

先日、本屋に立ち寄ったら、インド式計算の本が、専用コーナーを設けてたくさん並べてあった。今、このインド式計算がブームらしい。その勢いに押されてインド式計算の本を買ってみた。

インド式計算とは・・・例えば、「 $398 + 158$ 」の計算。インド式は、これを「 $400 + 156$ 」のように、片方をキリのいい数字に置き換えて計算する。まさに小銭の整理術。

次に「 14×11 」の計算。「11」を「 $10 + 1$ 」と捉えるのがポイント。まず「 14×10 」を計算して「140」。次に「 14×1 」で「14」。これを足して「 $140 + 14$ 」で「154」というやり方。これなら暗算でもできる。

それでは、「 48×25 」の計算。「25」を「 $100 \div 4$ 」と考えるのがポイント。先に「 48×100 」を計算して「4800」。それを「4」で割って「1200」。掛ける数が「25」の時は、100を掛けて4で割る。このように、「計算しやすい形にして変化させる」のがインド式。これなら、日本人だって人によってはとくにやっている方法かもしれない。それが今 なんとインド式として脚光を浴びているのか・・・。

もともとインドは、数学への取り組みが盛んな国らしい。掛け算も九九ではなく、 19×19 まで覚えるという。小さい頃からみっちり数学を学び、柔軟性に富んだ思考と論理をたたきこむ。我々日本人は、ちょっと複雑な計算になると、すぐに「電卓」に手がいってしまう。すっかり数学が苦手になってしまった。

「読み・書き・そろばん」の時代は、数学先進国だったはず。インドなんかに負けてはいられない。